



特集1

あらゆる スポーツシーンで 活躍できる人材を育成

九州共立大学大学院
スポーツ学研究科 スポーツ学専攻を新設

特集2

九州共立大学、
九州女子大学・九州女子短期大学の

地域活動

幅広い視野と実践力、
問題解決力を養う

学是自律処行

福原学園



九州女子大学
第1期生のみなさん
(昭和37年)

九州女子大学を開学 附属幼稚園も開園し一貫教育を実現

九州女子短期大学開学から2年後の昭和37年、福原学園は「社会の有能な婦人の養成を期する」（設置認可申請書）として建学精神の中核となる九州女子大学を開学。福原軍造理事長が学長兼教授として就任した。

当初は家政学部家政学科のみで家政課程と栄養課程としたが、管理栄養士養成施設制度の発足を受けただちに昭和43年、家政学専攻と管理栄養士専攻に分離。当時、全国の大学でも少なかった管理栄養士養成学校として認可され、九州女子大学の教育の質を高めたステータスシンボルとなった。

それに先立つ昭和40年には、国文学科と英文学科の二学科から成る文学部を増設。大学進学を希望し中学や高校の教師をめざす女生徒の増加に応えた。特に国文学科には全国でも稀な書道教育を取り入れ、人間形成の重要科目として位置づけた。昭和63年には高校生を対象とした「高等学校揮毫大会」を開始。以後、毎年開催し、書道振興に大きく貢献している。

九州女子大学の開学と、昭和37年以降の九州女子短期大学の目覚ましい学科増設に伴い、教育施設も拡充を図った。なかでも調理実習室や英語LL教室などを備えた九州女子大学新館は全国の大学から視察が絶えない最新鋭の施設だった。

一方、昭和45年には九州女子大学附属自由ヶ丘幼稚園を開園。福原軍造理事長が理想として掲げる幼稚園から大学までの一貫教育がここに実現した。



昭和39年に竣工した九州女子大学新館

Contents

創設者 福原軍造の書

■特集1

あらゆるスポーツシーンで活躍できる人材を育成

九州共立大学大学院 スポーツ学研究科 スポーツ学専攻を新設

国際的なスポーツ大会開催を控え、新たなスポーツ文化確立が求められている日本。一方、高齢者の健康をスポーツ面で支援する研究も急務だ。そんな時代の要請を受け、九州共立大学は2018年4月、九州共立大学大学院スポーツ学研究科スポーツ学専攻を開設する。

「広い視野と教養を持つ専門人たれ」

九州共立大学 スポーツ学部長 照屋 博行

■特集2

九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学の地域活動

幅広い視野と実践力、問題解決力を養う

九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学では、大学での講義のほか、幅広い視野を持ち、実践力や問題解決力を身につけてほしいと地域社会と連携・協力した活動に取り組んでいる。その事例を紹介し、社会の期待に応えられる力を育む学生たちの姿を伝える。

●九州共立大学 スポーツ学部 スポーツ学科

放課後高校中学生徒クラブ活動指導員補助ボランティア

●九州共立大学 経済学部 経済・経営学科

若松わいわいラジオ

岡垣町核兵器廃絶平和の町宣言事業小学生サポート

●九州女子大学 家政学部 人間生活学科 Chica Project

●九州女子大学 家政学部 栄養学科 災害食レシピの開発

●九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 人間発達学専攻 学習支援ボランティア

●九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 人間基礎学専攻 図書館ボランティア

●九州女子短期大学 子ども健康学科 キャラバン隊

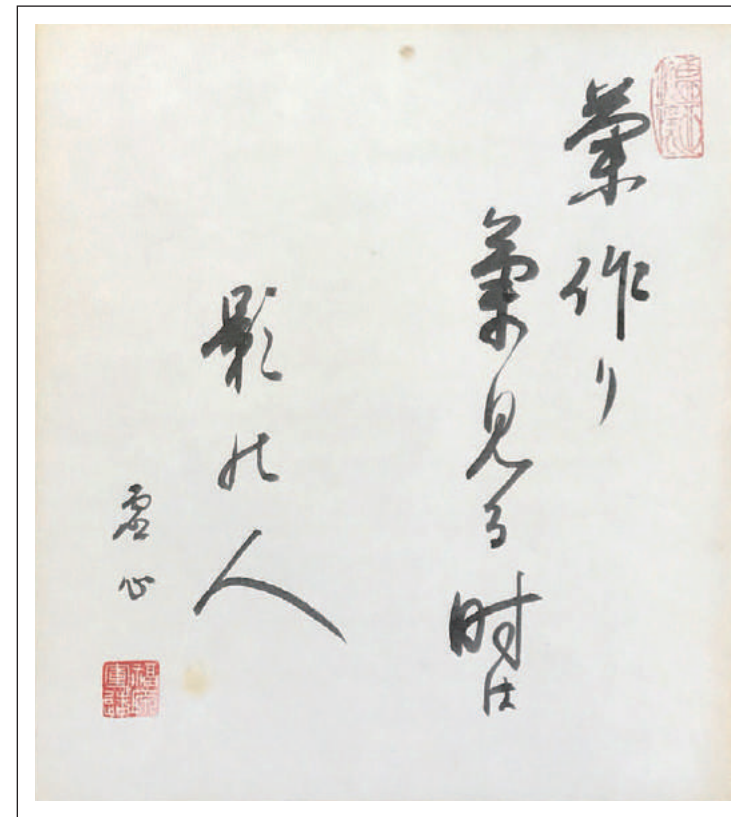
【今、注目のクラブ!】

●九州共立大学 ラグビーフットボール部／陸上競技部

●九州女子大学 書道部／剣道部

【Liberty Topics】

「ちょボラ部」福岡県警察からサイバーパトロールモニターを委嘱／
高血圧予防・改善をめざすDASH弁当を開発／第53回「霜月祭」開催／第57回「華秋祭」開催



【創設者 福原軍造の書】

「菊作り 菊見る時は 影の人」

今回も引続き、色紙作品を鑑賞したい。

前号「長谷寺の歌」では、福原軍造の教育へ向かう原点を、
“筆あと”から見出した。この歌は、どうであろうか。

考えるに、

一生懸命に教育し、教え子が立派に独り立ちする時、
教育者としてのあるべき姿を示唆してはいないだろうか。

「影の人」は、力みが無く、サラっと書かれていながらも、
この作品のクライマックス。余白にも清々しさを感ずる。

筆先を真直ぐに立て、技巧的運筆ではなく、筆の勢いそのままに、
たわみの無い線で最後まで押しきる筆致からは、
「菊を育てる者」「育てられる菊」双方の健やかさも感じられよう。

本学園に集う全ての者へ、創設者からのメッセージととらえたい。

【解説】九州女子大学 人間科学部 人間発達学科
准教授 古木誠彦

国際大会や健康づくり支援 活躍できる

九州共立大学大学院スポーツ学研究科は研究や教育内容を深めるため、専攻分野を細分化せず「スポーツ学専攻」の1専攻体制のもと、「スポーツ教育領域」「コーチング領域」「健康フィットネス領域」「アスレティックトレーニング領域」の4つの専門領域から院生が学びたい科目を選択する。また、現場演習を重視しているのも特長で、指導者として理論を確立させ、その実践力を身につける。

【人材育成/研究・教育目標】

日本のスポーツ文化の向上や健康づくりに寄与するハイレベルな研究と教育を実現

学是「自律処行」の精神を体現し、的確な判断力と人的徳性を有するスポーツ指導者・健康づくり指導者を育成

スポーツ技術向上に関する研究の推進と高度なコーチング・トレーニング理論の教授ができる教育体制の構築

スポーツ外傷・傷害とリハビリテーション、トレーニングに関する研究を通し、競技者を支えるための教育を実践

青少年の発達段階に応じたスポーツ技能、体力向上・健康維持・増進を研究

国民の健康保持・増進のための運動や高齢者の健康づくりに関する研究に基づく質の高い教育指導

人材教育や研究を通し、地域社会に密着した活動を実施

【専門領域】

スポーツ教育領域

社会の変化に柔軟に対応し、指導を受ける者が自ら課題を見つけて学ぶ課題探求型の学びを実践させる高度な指導力を持つ人材を育成。



コーチング領域

運動・スポーツに関する研究や現場での実践を通して身につけた知見や課題解決能力を基に理論的なスポーツ指導法を確立し実践する人材を育成。



健康フィットネス領域

健康支援の現場運営管理能力を身につけ、幅広い年代層の適切な運動や健康づくり、並びに健康づくり施策を支援できる能力を持った人材を育成。



アスレティック トレーニング領域

スポーツ医科学の研究を通して得られた科学的根拠に基づく高い専門性と実践力を備えたトレーナーを育成。



【取得可能な免許】

大学で中学校教諭一種免許状(保健体育)と高等学校教諭一種免許状(保健体育)を取得している学生は、スポーツ学研究科スポーツ学専攻で必要な単位を修得することによって保健体育の専修免許状を取得できる。

- 中学校教諭専修免許状(保健体育)
- 高等学校教諭専修免許状(保健体育)
(教職課程認定申請中)

などあらゆるスポーツシーンで 人材を育成

【特集1】

2018年4月

九州共立大学大学院 スポーツ学研究科スポーツ学専攻を新設

今、日本では東京オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップなど、

国際的なスポーツ大会開催を控え、

新たなスポーツ文化の確立が求められている。

その一方、高齢者の健康をスポーツ面で支援する研究も急務だ。

そんな時代の要請を受け、

九州共立大学は2018年4月、

九州共立大学大学院スポーツ学研究科スポーツ学専攻を開設。

国際的視野を持ってスポーツに関わる人材や

健康支援分野での現場運営管理能力を身につけた

人材の育成をめざす。

その概要を紹介し、設置の背景や教育方針などについて

同大の照屋博行スポーツ学部長の思いを伝える。

【研究科・専攻の概要】

設置年度	2018(平成30)年度
名称	九州共立大学大学院 スポーツ学研究科 Graduate School of Sports Science スポーツ学専攻 Major in Sports Science
学位	修士(スポーツ学) Master of Sports Science
設置場所	〒807-8585 福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8
入学定員	5名(収容定員10名)

スポーツの価値を 多角的にとらえる 広い視野と教養を持つ 専門人たれ

「進化」と「深化」で究める 高い指導力と専門知識

2019年のラグビーワールドカップ、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、その準備も着々と進められ、多くの人々のスポーツに対する関心や期待が日々高まっています。

このような中で、スポーツに対する期待や考え方が多様化していることもみられています。スポーツの徳性である「より早く、より高く、より強く」と言われていた中で、スポーツに親しむ人の中には、「より美しく」を求めている人もみられるようになりました。

現在、わが国では少子高齢化



九州共立大学 スポーツ学部長

照屋 博行

教員と議論を戦わす、 「生意気な」院生を育てたい

え、「身体的、精神的、そして、社会的に健康とは何か」を多角的に追求し、研究者の育成だけではなく、スポーツ現場で指導的立場に立てる人材を育成してまいります。

本大学院は研究・教育内容を総合的に深化させるために「スポーツ学研究科 スポーツ学専攻」として「スポーツ教育領域」、「コーチング領域」、「健康フィットネス領域」、「アスレティックトレーニング領域」の4つの領域を設けますが、院生は領域の枠を越えて自分自身の課題に沿った科目の単位が履修できます。

特に「アスレティックトレーニング領域」は他の大学院にはない、本学独自の領域で、来たるべき、大規模な国際イベントを見据え、グローバルに活躍できる人材が育つことを期待しています。また、演習科目は北九州市や近郊の種々の団体との連携によって、現場を知り、実践できる力を強化してまいります。

更に、専門家ほど目まぐるしく変化するこの社会情勢を客観的に判断できる視野が必要です。



院生には自分自身の専門性のみを追求するばかりでなく、幅広い視野でものごとを見て、考えることができる教養を身に付けて欲しいと願っています。そして、自分の考えをしっかりと持ち、時には教員と熱く議論を戦わせながら自分の研究を進めて行く、良い意味でのしっかりとした「生意気さ」を持った院生を育てたいと考えています。

放課後高校中学校クラブ活動指導員補助ボランティア (バレーボール部)



九州共立大学 スポーツ学部 スポーツ学科 4年
(福岡県立八幡高等学校出身)

砂川 朋也 さん

恩師は3人いて、中学時代に所属していたバレーボール部顧問と、担任で陸上部顧問、同じく担任でサッカー部顧問の先生方。「授業や部活は厳しかったですが、それらが終わると気さくに相談にのってくれて頼り甲斐があり、今でも交流があります」

ボランティアで知った
現場の地道な姿
教員への決意あらたに
夢に向かう



中学校と高等学校の指導補助は平日の夕方や土日を合わせて週1日～3日。学業とうまく両立しながら4年間続けることができた。地元の社会人バレーボールチームで練習に参加させてもらい、技術を高める努力を怠らない。

中学校の保健体育教員をめざす砂川朋也さんは、教育現場での指導力を高めたいという思いから、大学入学当初から母校・八幡高校のバレー部で指導補助をしている。その後、活動を知った中学時代の恩師から声がかかり、地元・八幡にある公立中学校の女子バレーボール部でも指導補助ボランティアを開始。4年間、両方で活動を続けてきた。

中学生は部活動に対するモチベーションや技術力に個人差があり、指導が難しい場面が多い。また、部活動の時だけ参加する自分と比べ、授業や生活指導などで日頃から生徒に関わる先生は指導内容も濃く、生徒に伝える言葉も深みがあると感じている。

「私が学生だからでしょうか、

生徒は親しく話しかけてくれます。それはうれしいのですが、先生のレベルに達していきなくても練習中は時に厳しく時にやさしく、メリハリをつけてコーチしています」。

ボランティア活動では現場の先生たちとの交流も深まった。おかげで北九州市の中学校体育教員による体育研究会に参加でき、中学生の基礎体力向上のため指導法を工夫するなど、現場の地道な努力を知った。その活動を見て、「中学生の体力向上のために役に立ちたいという新たな目標を見つけることができました」とよめる。

平成29年度の採用試験は残念ながら結果に終わったが、4年にわたるスポーツ学部での学びと、バレーボール部の指導補助の体験を糧に、試験へのチャレンジは続ける。「生徒が将来に夢を持てるような素晴らしい指導ができる教員が目標です」そういう砂川さんのまなざしもまた、夢にあふれていた。



九州共立大学



Our
Community
Contribution
Activities

九州女子大学



九州女子短期大学の



幅広い視野と
実践力、
問題解決力を養う

地域活動

九州共立大学、九州女子大学・九州女子短期大学では、大学での講義のほか、幅広い視野を持ち、実践力や問題解決力を身につけてほしいと地域社会と連携・協力した活動に取り組んでいる。

その事例として、九州共立大学スポーツ学部スポーツ学科の放課後クラブ活動指導員補助ボランティア、同大学経済学部経済・経営学科の若松わいらいラジオと岡垣町核兵器廃絶平和の町宣言事業小学生サポート、また、九州女子大学家政学部栄養学科による災害食レシピ開発、同大学家政学部人間生活学科による地下道プロジェクト、同大学人間科学部人間発達学科による学習支援ボランティアと図書館ボランティア、九州女子短期大学子ども健康学科によるキャラバン隊を紹介。地域に飛び出し主体的に活動するなかで、社会の期待に応えられる力を育む学生たちの姿を伝える。

九州共立大学 経済学部 経済・経営学科

若松わいわいラジオ

地域活動

3

ラジオを通して
地元の情報を発信
取材現場で感じた
地域の魅力



二人はマーケティングや企業研究を通して地域経済についても学んでおり、ワークショップでは若松港に入港する外国船の船員向けマップづくりで若松区の魅力を探った。

「ヘッドホン越しに聞こえる自分の声が他人のようで、不思議な気持ちでした」 榎本紘子さんと佐々木法恵さんは共に、初めてスタジオに入った日をそう振り返る。二人は昨年6月から今年5月まで地域のコミュニティFMラジオ情報番組「若松わいわいラジオ」に出演。学生の目で見えた街の様子や地域の情報を発信し続けた。

きっかけは地域貢献のゼミで、地域の活動を自分たちの目で見えないかと指導教授から誘われたこと。面白そうと思って飛び込んだが、放送内容から時間配分まで、すべて自分たちで考えるという企画は大変だった。「15分ほどの時間をいただき、ワークショップで調べた若松地域のお店の情報や、サークル仲間や留学生をゲストに呼び、若者や外国人の目で見



九州共立大学
経済学部 経済・経営学科 3年
(福岡県立小倉商業高等学校出身)

榎本 紘子 さん

ラジオ番組の原稿作りで客観的に物事を捉える力が養えたところも榎本紘子さん。取材でいろいろな方と接するうちに何事にも物怖じしない度胸も身についたという。

九州共立大学
経済学部 経済・経営学科 3年
(福岡県立福岡講倫館高等学校出身)

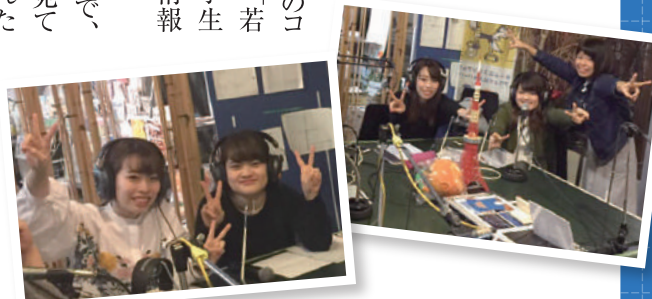
佐々木 法恵 さん

取材に出てみると、伝統的な祭りや素敵なお店など、地元には見落としていた魅力があることを知った佐々木法恵さん。今後はもっと視野を広げ、自分の地元である糸島市の魅力も発信したいと意欲が芽生えた。



若松わいわいラジオ

若松地区のまちづくり組織「若松がんばらう会」が制作するラジオ番組。2013年、コミュニティFMラジオ放送局Air Station Hibiki(愛称・エフエムひびきの)でオンエア開始。北九州市若松区・八幡西区、遠賀郡の地域に密着した話題を提供している。放送は毎月第2木曜の20時から21時。周波数は88.2MHzで、アプリをダウンロードすればパソコンでも聴くことができる。



「今まで知らなかった地域のことを深く知ることができ、さらに知りたい、伝えたいという気持ちが強まりました」と、手応えを感じている。

将来は旅に関する仕事に就きたいと希望する榎本さん、就活では今まで意識しなかった地元企業にも目を向けたいと話す佐々木さん。今回の活動が二人の視野を広げ、目標に向かって進む大きな力になったようだ。

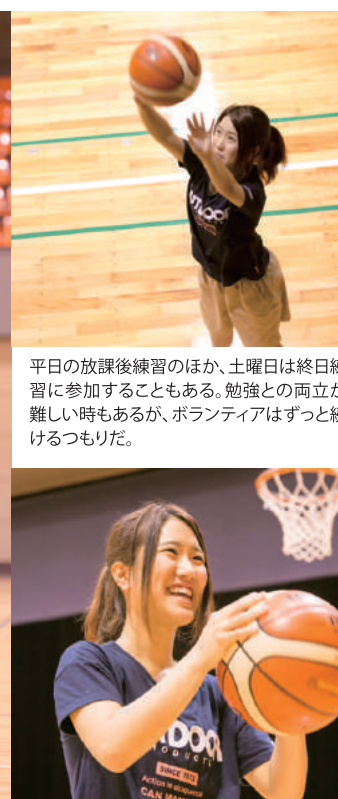
地域活動

2

放課後中学校クラブ活動指導員補助ボランティア(女子バスケットボール部)



高校時代のバスケットボール部の顧問は生徒の悩みを親身に聞いてくれる素敵な先生だった。そんな教員になりたいという思いが毎日の勉強やボランティア活動を支えている。



平日の放課後練習のほか、土曜日は終日練習に参加することもある。勉強との両立が難しい時もあるが、ボランティアはずっと続けるつもりだ。

お姉さんの存在だからか、生徒とはバスケットボール以外の話題で盛り上がることも。これは今どきの中学生の考え方に触れるいい機会になっている。

わかりやすい言葉で
指導する難しさ
現場での経験を
自らの成長の糧に



九州共立大学 スポーツ学部
スポーツ学科 2年
(福岡県立朝倉高等学校出身)

時川 愛衣 さん

北九州市で唯一、スポーツ学部を設置する九州共立大学では、近郊の各自治体や団体と連携し、地域の健康づくりやスポーツ指導をサポートしている。なかでも学生による中学校のクラブ活動指導補助ボランティアは、教員やスポーツ指導者をめざす学生が現場を体験する絶好の機会になっている。

中学校か高校の体育教員をめざす時川愛衣さんはキャリアデザインの授業でボランティアのことを知り、今年5月から大学近くにある公立中学校の女子バスケットボール部で指導補助活動を行う。

「週2回のペースで、顧問の先生の指導に従いながら生徒の練習相手します。先生は厳しい方なので落ち込む生徒がいるのですが、そんな時はフォローしてあげる言葉がけを心がけています」 大学生と



「このチャンスを生かして勉学を重ね、生徒一人ひとりのよさを見つけて、各自が持つ力を引き出せる先生になりたいと思っています」そう意欲を燃やし、時川さんは教員というゴールに向かって今日も走る。

大学で勉強するだけでは中学生と話することも実際にスポーツ指導に関わることもできなかった。「このチャンスを生かして勉学を重ね、生徒一人ひとりのよさを見つけて、各自が持つ力を引き出せる先生になりたいと思っています」そう意欲を燃やし、時川さんは教員というゴールに向かって今日も走る。

しかし、悩むこともある。中学・高校とバスケットボールをしていた経験から技術的な自信はあるが、中学生を指導しようとする、どんな言葉で伝えればいいか迷うのだ。「生徒が悩んでいても、がんばれという抽象的な言葉がけしかできません」これでは指導者とはいえないと、体育理論や指導法をさらに勉強している。

大学で勉強するだけでは中学生と話することも実際にスポーツ指導に関わることもできなかった。「このチャンスを生かして勉学を重ね、生徒一人ひとりのよさを見つけて、各自が持つ力を引き出せる先生になりたいと思っています」そう意欲を燃やし、時川さんは教員というゴールに向かって今日も走る。

ということもあり生徒に親しまれ、部の雰囲気や和やかにするムードメーカー的な役割が果たせているようだ。

九州女子大学 家政学部 人間生活学科

Chica Project

地域活動

1

「楽しく歩ける歩道に
なればいいな」
その思いが
市を巻き込む
一大プロジェクトへ



「Chica Project」

北九州市と北九州塗装協同組合の指導・協力のもと、九州女子大学・九州女子短期大学横を通る国道199号を渡る全長30mの地下歩道「自由ヶ丘地下歩道」の壁面の改修とタイルの洗浄を今年の6月中旬から7月中旬まで、学生ボランティアでおこなった。

九州女子大学・九州女子短期大学そばの「自由ヶ丘地下歩道」は多くの学生や地域の人々が利用するが、劣化が進み薄暗く汚れも目立つため、通るのを躊躇する学生がいた。ここを楽しく歩ける空間にしようと立ち上がったのが戸田希実さんだ。

「照明が壊れて夜は暗く、治安面で不安もありました。そんな話を、通学の電車が一緒に普段から親しく会話を交わす建築が専門の前田修吾教授に相談すると、市役所と協力すればきれいにできるかもと連絡を取ってくださいました」

同意と協力が得られて地下歩道の化粧直しを学生ボランティアで行うことが決定した。だが、下地塗りや塗料、足場は無償で協力してもらったものの、それ以外の費用は自分たちで捻出しなければならぬ。そこで、クラスメイトの東美琴さん、山本優さんを誘い、フリーマーケットで不用品を売ったり、手作りのアクセサリーや小物を学内で売ったりして賄った。

今年の6月中旬から始めた作業は授業の空き時間や休日を使ってシフトを組み、最終的に人間生活学科の1年生から3年生まで、延べ40名の学生が協力した。およそ1か月間で完成したが、豪雨で歩道が冠水して、描いた絵がはがされるアクシデントもあり、「完成



した時は達成感とほっとした気持ちで胸がいっぱいになりました」と戸田さんは話す。

学生たちは卒業後、教職や一般企業、公務員などさまざまな道に進む。しかし、どんな職場でも求められるのは自ら問題を提起し解決する力だ。このプロジェクトで市などと交渉し、不足する費用は自分たちで稼ぎ実行・完結した体験は、学生たちにとって大きな力になった。

九州女子大学 家政学部 人間生活学科 3年
(福岡県立糸島高等学校出身)

戸田 希実 さん

下絵の配置を間違えて下絵をほとんど描き直したり、7月7日の豪雨で地下道が天井まで冠水しはげた塗装をなん度も塗り直したり、苦労が絶えなかったと振り返る戸田希実さん。

九州女子大学 家政学部 人間生活学科 3年
(福岡県立京都高等学校出身)

山本 優 さん

山本優さんは、このプロジェクトをきっかけに地元の児童を対象にしたボランティア活動に参加。ボランティア全般に、積極的に関わるようになった。

九州女子大学 家政学部 人間生活学科 3年
(熊本県立熊本農業高等学校出身)

東 美琴 さん

この11月におこなう家政学部のファッションショー企画を担当している東美琴さんは、このプロジェクトを経験したことでチームをまとめる自信がついた。

地域活動

5

岡垣町核兵器廃絶平和の町宣言事業小学生サポート

小学生と考えた
核兵器のない
平和な社会
教員を志望するうえで
貴重な経験に

九州共立大学
経済学部 経済・経営学科 2年
(福岡県立小倉南高等学校出身)

磯貝 幸希 さん



クイズの問題を舞台に映し出すためのスライド原稿作りも担当した。参考資料となる画像を選び、子どもたちが原稿を読む時間などを考慮しながら原稿を作るのは難しかったと振り返る。

小学校教員をめざしているため、磯貝幸希さんは目頃から小学生の考えに触れたいと思っていたが、大学生活のなかではそのような機会はあまりない。きっかけを探していたところ、大学から岡垣町の核兵器廃絶平和の町宣言事業イベントに参加する小学生のサポートボランティアを紹介された。

発表の形に仕上げるまでをサポート。活動は今年4月からイベントのある8月までの毎土曜日に行っていた。

「イベントの全体責任者に子どもたちの希望を伝えると、高さ1.5mもある模型を舞台に置くのは大変といわれましたが、なんとかオーケーをもらい、最終的には原爆の恐ろしさを伝えたいという子どもたちの思いを表現できました」苦労も多かったが、地域の指導者や小学校の先生の考え方に触れることができた。この経験を生かし、今、教員への道をまっすぐに進んでいる。

長崎に投下された
原子爆弾の名前は？

- ① リトルボーイ
- ② ファットマン
- ③ ビックボーイ

正解 ② ファットマン

平成29年度岡垣町核兵器廃絶
平和の町宣言事業

「わたしたちの愛するふるさと岡垣町から、戦争のない・核兵器のない・平和な世界を築こう」というスローガンのもと、この8月6日、岡垣町・岡垣サンリーアイ・ハミングホールで開催。同町の小学生が平和について学び、感じたことを発表する。地域のイベント企画集団「さんりん舎」が指導し、九州共立大学の学生が事前準備をサポートした。



活動では子どもたちといっしょに長崎市にかけ、戦争体験者の話を聞く機会を得て平和について改めて考えた。活動に参加しなければできなかった貴重な体験だ。

小学校教員養成プログラム

九州共立大学では「小学校教員養成プログラム」を導入しており、中学校・高等学校の教職課程を履修の上、教育連携を行う姫路大学教育学部通信課程にて所定の科目を履修することで小学校教諭一種免許に必要な単位を取得できます。

九州女子大学 人間科学部
人間発達学科 人間発達学専攻

学習支援ボランティア

地域活動

3

「ありがとう。
また来てね」
児童の言葉が
夢に向かう力を後押し



支援現場に行く前は、学生同士で指導法や児童への伝え方などを議論し、準備に余念がない。

九州女子大学人間発達学科では自治体や地元の教育委員会と連携し、教職をめざす学生をボランティアとして地域の小学校や特別支援学校、幼稚園・保育園、学習支援事業の場に派遣。授業補助や児童のサポートを行っている。活動は地域児童の学力向上につながって高く評価される一方、学生の実践力を磨く貴重な場になっている。

小学校教諭をめざす川崎史織さんはそんな活動のひとつ「芦屋町土曜学び合い」に昨年から参加。「大学の授業では子どもと関わる機会がなかなかありませんが、ここではさまざまな学年の児童と出会え、学年に応じた接し方や指導法を学ぶことができました」と手応えを感じている。

神代結里子さんは2年生の時から参加しているグリーンティーチャー制



九州女子大学 人間科学部 人間発達学科
人間発達学専攻 4年
(鹿児島県立伊集院高等学校出身)

川崎 史織 さん

将来は、児童が学校に来るのが楽しいと思える学級づくりをしたいという川崎史織さん。

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科
人間発達学専攻 4年
(山口県立下松高等学校出身)

神代 結里子 さん

「また来てね」という児童の言葉がうれしいという神代結里子さんは、北九州市が主催する学習支援にも指導員として参加した。

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科
人間発達学専攻 4年
(福岡県立青豊高等学校出身)

久保 結奈 さん

大学での手厚い指導と現場で磨く実践力のおかげで実力がついたと久保結奈さん。教員採用試験へ向けて、自信も十分だ。

度について、「小学校の授業に触れ、担任の先生の授業の進め方から立ち居振る舞い、掲示物の掲示の仕方まで、勉強になることがたくさんありました」と振り返る。

「芦屋町土曜学び合い」

芦屋町がおこなっている学習支援事業で、毎月1～2回、土曜の午前中に小学生の宿題等のサポートや学習の進み具合に応じた学習を支援する。参加児童は100名を超え、町も学生たちの取り組みを高く評価している。

「グリーンティーチャー制度」

九州女子大学が地元の教育委員会や幼稚園・保育園と提携。小学校や特別支援学校、幼稚園・保育園などへ、学生を週1回のペースで派遣している。実際の授業や保育現場で児童・園児の指導補助や教材の準備など通し、実践力を身につける本学独自の取り組みだ。

複数の学習支援事業で小学生のサポートに関わった久保結奈さんは教員採用試験に向けて大きな自信になったという。「児童が宿題の問題を自力で解いた時、すごくうれしそうな表情をしたのが印象的で、改めて教員への思いが強くなりました」として、「ありがとう。また来てね」という児童からの言葉が大きな励みになっていると3人は口を揃える。

現場での体験は、実践力を磨くだけではなくモチベーションをより高める役割も果たしており、毎年、多くの学生が小学校・特別支援学校の教員採用試験に現役で合格。「先生になる」という夢を実現している。

地域活動

2

九州女子大学 家政学部 栄養学科

災害食レシピの開発



①水巻町の主婦と11月に開催する九州女子大学「災害食レシピコンテスト」への出品をめざし、巴美樹教授、山本亜衣講師、新富瑞生講師のゼミ生を中心にレシピ開発を進めている。②レシピの条件は水巻町が配布する備蓄食品を使用するほか、災害時を想定し水をあまり使わず、熱源はカセットコンロのみ。味付けに苦渋したが、災害時こそおいしいものが必要とアイデアを出し合った。③配布される備蓄食品は缶詰3種、アルファ化米、備蓄水。これに、家庭で買い置き率の高いと思われる顆粒だしや調味料、小麦粉、コンビニなどで手に入りやすい野菜ジュース、切り干し大根を使った。



(上段左から) 切り干し大根を生地に練りこんだピザ、サバ味噌缶を使った焼きおにぎり(中段左から) アルファ化米を野菜ジュースで炊いた野菜飯、切り干し大根のからしマヨネーズあえ、野菜ジュースを使ったスープ(下段左から) サバ缶を使ったサバ飯、切り干し大根のケチャップ炒め、煮物の缶詰を使ったすいとん。

九州女子大学家政学部栄養学科では高い専門性を生かし、企業と食品の共同開発や自治体と連携しての特産品開発、メニューづくりを行っている。なかでもユニークな取り組みとして注目を集めているのが、備蓄食品を使った災害食レシピの開発だ。

九州女子大学は隣町の水巻町と受託研究契約を締結しており、そのひとつとして備蓄食品を使ったおいしいレシピを開発できないか依頼を受けた。同町が災害時に

缶詰やアルファ化米で
おいしさ追求
限られた条件で
メニュー発想力を鍛える



九州女子大学 家政学部 栄養学科 4年
(福岡県立筑紫中央高等学校出身)

木村 眞子 さん

食品開発が好きという木村さんは、食品開発会社に内定。みんながあつと驚く商品を作るのが夢だ。

備え、町内全世帯に備蓄食品の配置を計画しているからだ。開発に参加した木村眞子さんは、「最初は面白そうだと思いましたが、備蓄食品の缶詰は味が濃いし、アルファ化米は食感がボソボソしていて、しかも火力はカセットコンロだけ。どうしたものかと考え込みました。何度も試作を繰り返すものの、おいしいものができず、先生からオーケーがなかなかもらえませんでしたね」と振り返る。

野菜などが使えないため栄養不足も課題となった。そこで、一般家庭でも常備しやすい顆粒状のだしや乾物、野菜ジュースを取り入れて壁をクリア。8品の災害食が完成した。「このレシピがきっかけで、災害時に備えて食品を備蓄するという意識が高まり、地域貢献につながるとうれしいです」と木村さん。缶詰の焼き鳥をのせたピザなど、学生らしい柔軟な感覚が生かされたメニューであった。

栄養学科の学生は、食のエキスパートとして社会で活躍する夢を持つ。しかし、就職を希望する企業や施設では食の知識だけでなく、限られた条件下での提案力も求められる。今回の取り組みは、学生たちの発想力を鍛えるよい機会となった。

九州女子短期大学 子ども健康学科

キャラバン隊

地域活動

5

機転を利かせて
身につける実践力
現場で子どもから学び、
さらに成長



キャラバン隊は子ども健康学科の学生で結成。若葉保育所には精鋭部隊30人のうちの9人と引率の先生で訪問。提携を結んでいる芦屋町のほか、依頼があればほかの地域の保育園・幼稚園・学校・施設にも訪問。学びを深めている。

子どもの視線に合わせるようにしゃがみ、ハイタッチ。子どもたちの笑顔は学びの励みになる。



九州女子短期大学 子ども健康学科キャラバン隊とは、平成24年に結成された学生主体の組織だ。活動の幅は広く、保育園や幼稚園、学校・施設に向いて模擬保育・模擬授業、地域イベントで子ども等と触れ合うボランティア活動、高校での出前授業、オープンキャンパスでの学科紹介や模擬保育・模擬授業などの活動を行っている。また、活動の様々な活動を通して、子どもたちの笑顔は学びの励みになる。

子を「九女ひよこチャンネル」で動画の配信も行っている。なかでも、現場で行う模擬保育・授業は、保育士や幼稚園教諭、養護教諭をめざす学生にとって実践的学びが体験できるチャンスとなっている。この夏は芦屋町の若葉保育所で模擬保育を行った。キャラバン隊長の田畑美咲さんは「日頃の授業のなかで模擬保育の内容・構成を検討し、教材を作ったり表現力を磨いたりして準備してきました。でも、実際にやってみると想定外のこともあり、少し慌てましたね」と笑う。例えば、子どもに言葉の意味が伝わらず予想した反応がなかったり、話に興味をなくした途端に違う遊びを始めた。現場ならではの体験をした。

そのような問題点は反省し教材をさらに工夫。言葉のかけ方なども研究する。そして、一度、現場を体験した学生は、事前に考えた段取り通りに授業が進まなくても、機転を利かせて子どもを飽きさせないなど、状況に即した力が身についていく。

また、キャラバン隊の活動では

保育園・幼稚園の園長や先生、地域の世話人といった年長者たちと関わるため、その場にふさわしい立ち振る舞いや言葉遣いなど、社会人として必要なマナーを学ぶ。隊員同士が協力し合い目的を達成するよるこびも味わい、人間として大きく成長するきっかけになっているようだ。

九州女子短期大学 子ども健康学科 2年
(福岡県立稲築志耕館高等学校出身)

田畑 美咲 さん

キャラバン隊隊長として隊員をまとめる。高校時代、オープンキャンパスで訪れた際、キャラバン隊隊員の笑顔が印象的だったと話す。

九州女子短期大学 子ども健康学科 2年
(宮崎県立延岡高等学校出身)

北岩 真衣 さん

キャラバン隊副隊長として田畑さんを補佐。同隊の経験を生かし将来は子どもに寄り添える養護教諭をめざしている。

九州女子短期大学 子ども健康学科 2年
(福岡県立八幡南高等学校出身)

長塩 あみる さん

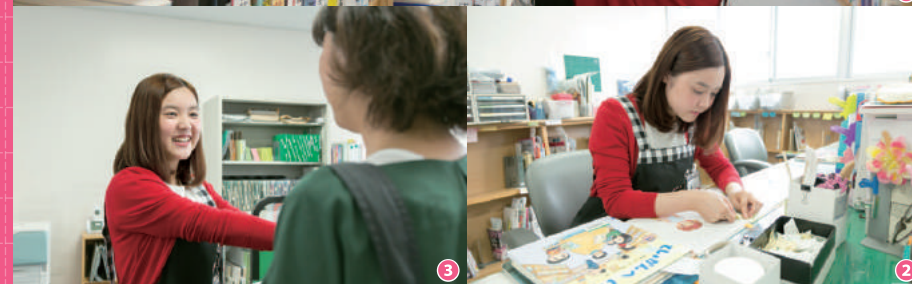
高校生の時からキャラバン隊は憧れの存在だった。同隊では「九女ひよこチャンネル」の編集を担当。活動を通して子どもを笑顔にするよるこびを実感している。

地域活動

4

九州女子大学 人間科学部
人間発達学科 人間基礎学専攻

図書館ボランティア



①九州女子大学ではこれまで北九州市内、および近郊の市・町の公共図書館と学生をつなぎ、毎年20名前後の学生を図書館ボランティアとして派遣している。②書架の整理や貸出業務以外に、本の補修や点検など司書の仕事は多岐にわたる。③ボランティアは月に1〜2回の割合で行うが、大学にも定期的に業務内容や反省点などを報告し、担当教員からアドバイスを受けている。

実務を通して
鍛える多様な力
めざすは利用者
に頼られる司書



九州女子大学 人間科学部 人間発達学科
人間基礎学専攻 3年
(福岡県 折尾愛真高等学校出身)

坂口 芽生 さん

「本好きが高じ司書をめざして勉強中ですが、実際に図書館の実務に携わると、授業では気づかなかった発見がたくさんありました」そう明るく話すのは、北九州市立若松図書館島郷分館でボランティアとして司書業務をサポートする坂口芽生さん。大学の図書館と本棚の位置が違いため図書整理に時間がかかったり、利用者からパソコンを使った本の検索法を聞かれてうまく説明できなかったり、最初は戸惑うことも多かったが、職員さんのサポートもあり、今ではスムーズにサービができるようになった。

また、多くの利用者と接するなか、高齢者の方にはゆっくり話すなど、相手に応じた話し方が身についたことも司書をめざす上で勉強になった。

印象的だったのは、子どもと保護者を対象とした絵本の読み聞かせイベントを手伝ったこと。「子どもたちと触れ合い、目を輝かせて話を聞く姿を見て、絵本の持つ力を実感するとともに、司書としての良い経験ができて楽しかったです。また、司書は様々な企画を考え発信する力が求められることもわかりました」とボランティアを通して学んでいる。

価値観が多様化するなか、大学も図書館司書の役割がそのように変化していることを踏まえ、実務経験ができる環境を用意している。また本の魅力を利用者に感じてもらえるよう館内に掲示するPOPやチラシづくりを課題にした授業を行い、学生の企画力や情報発信力を鍛えている。

九女で「好きな本に囲まれて司書をめざせるのは幸せ」と坂口さん。「この経験を生かし、将来は利用者のニーズをつかみ、気軽に声をかけてもらいたいというある司書になりたいですね」と意欲を燃やしている。



アジア大会出場や 全国6位の有力選手揃い 自己ベストを更新し、より高みへ

九州共立大学 スポーツ学部 スポーツ学科 3年
(沖縄県立宮古高等学校出身)

佐渡山 みなみさん

九州共立大学陸上競技部は部員数234名という大所帯。全国大会はもちろん、アジア大会にも出場する有力選手が多い。そんな部員同士が高いレベルで切磋琢磨するなか、めきめき頭角を現しているのが短距離競争やリレーなど、トラック競技に闘志を燃やす佐渡山みなみさんだ。大学入学当初は特に目立った成績ではなかったが、3年生になって見る見るうちに実力をつけ始め、九州選手権女子100mで優勝、全日本学生選手権(インターカレッジ)出場権を獲得し、今では全国大学学生女子100mで6位にランキングされている。

成長の理由を問うと、「目標を達成するためにはどうすればよいか考えて練習し、粘り強く取り組むようになったからだと思います」と答えてくれた。また、大勢いる仲間の存在も大きい。「入部したての頃は部員数の多さに驚きましたが、たくさんいるライバルや仲間が自分を成長させてくれました。強い選手は、練習だけではなく生活面もしっかり自己管理できており、見習う点がたくさんあってとても勉強になっているからです」。

トラック競技の選手たちは4年生の競技ブロック長を中心にまとまっており、成績がよい選手でも特別扱いされないし、先輩後輩の厳しい上下関係もない。互いに高め合うのびのびした練習環境のなか、全員が自己ベストを出すというひとつの目標に向かってるのが強みだ。「大学生活もあと1年。恵まれた仲間と練習場に感謝しながら、より高みをめざしています」大粒の汗をかきながら爽やかな笑顔でそう語ってくれた佐渡山さん。今後の活躍に大いに期待したい。

■成績 〈平成28年度〉全日本学生選手権2016
男子やり投・男子ハンマー投・女子円盤投 優勝
〈平成29年度〉女子砲丸投・円盤投、ハンマー投 男子ハンマー投
第22回アジア陸上競技選手権大会 日本代表選出
第71回中国5県陸上競技選手2017 女子100m、200m 優勝

陸上競技部

7人制ラグビーの 日本代表選手を輩出 「拳」に闘志を込め、行くぞ! 全国大会

九州共立大学 経済学部 経済・経営学科 4年
(島根県 石見智翠館高等学校出身)

中野 将宏さん

激しくぶつかり合いながら選手たちが得点をめざして走るラグビーはチームスポーツのなかでも特に荒々しく、走る格闘技ともいわれる。増して九州共立大学ラグビーフットボール部は部員数が90名と多く、レギュラー争いも熾烈。部内はピリピリしているかと思いきや、「部員同士は和気藹々。礼儀は守りますが、上下関係は厳しくありません」と副主将の中野将宏さん。

さらに意外だったのは、練習前の用具の準備などは3・4年生が行う。そういう姿を1・2年生に見せることで、練習前に何をすればいいか学ばせるためだ。これは自主性を育むことにつながっており、1・2年生のプレイも自ずとのびのび躍動的で、よいパフォーマンスを生んでいる。

高校時代からラグビーを始めた中野さんも、こんな雰囲気なかで力を伸ばした一人だ。昨年は7人制ラグビー日本代表に選ばれて世界大会に出場し、一流選手と交流する機会も得た。

「プレイに対する要求はシビアでしたが、初めての世界大会で緊張する自分をリラックスさせようといういろいろな声をかけてくださり、チームメイトに対する気配りや相手を信頼する気持ちの大切さを教えられました」。

部の目標は全国大学選手権に出場すること。昨年は前哨戦である九州学生1部リーグで惜しくも準優勝にとどまり、出場権を獲得できなかった。今年は「フィスト(拳)」という新スローガンのもと、ライバル校を倒し、必ず「全国」へ行くぞと拳に闘志を込めて練習に励む。

■成績 〈平成28年度〉九州ラグビーフットボール
第24回九州学生1部リーグ 準優勝



陸上部はトラック、投てき、跳躍の3つの競技グループに分かれて練習している。一周400mのトラックが8レーンある練習場をはじめ、投てき専用フィールド、トレーニング用走路など、恵まれた環境が備わる。

ブルーのトラックが鮮やかな九州共立大学陸上競技場は第3種公認競技場として公認記録会も行われる。水はけがよく雨の日でも競技が可能だ。



佐渡山みなみさんの目標は全日本インカレ優勝。学業では保健体育の教師をめざし部活動と両立させている。

山口恭平 講師
(九州共立大学スポーツ学部 陸上競技指導)、
陸上競技部コーチ(トラック競技)

筑波大学大学院修了後、JICA(国際協力機構)青年海外協力隊に参加しジャカルタの陸上代表チームを指導。その後、青年海外協力協会事務・広報を経て、平成24年より現職。部員一人ひとりを細やかに見守り、全員が前向きな気持ちで練習に取り組めるようメンタル面の指導を大切にしている。



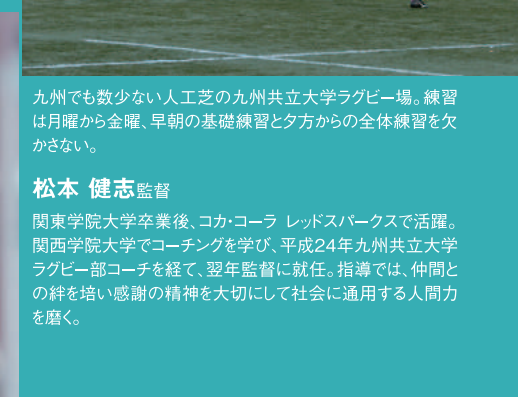
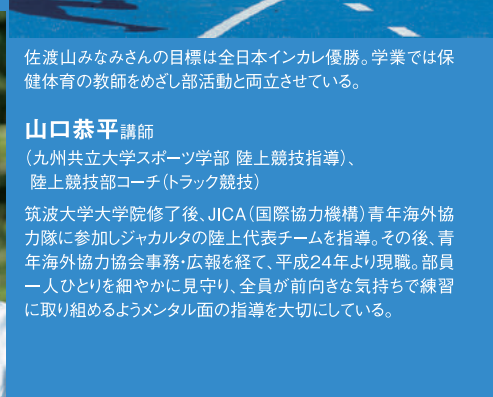
ポジションごとの役割が明確で、プレイヤーは足の速さやスクラムの強さなど、自分の得意技を生かしチームに貢献できることがラグビーの魅力だという。男子7人制ラグビー日本代表メンバーとして、昨年11月から今年5月まで世界大会10大会に出場した中野将宏さん。ポジションはフルバック(15人制)、スクラムハーフ(7人制)。



九州でも数少ない人工芝の九州共立大学ラグビー場。練習は月曜から金曜、早朝の基礎練習と夕方からの全体練習を欠かさない。

松本 健志 監督

関東学院大学卒業後、コカ・コーラ レッドスパークスで活躍。関西学院大学でコーチングを学び、平成24年九州共立大学ラグビー部コーチを経て、翌年監督に就任。指導では、仲間との絆を培い感謝の精神を大切にして社会に通用する人間力を磨く。



「部」に昇格しインカレ入賞めざす 日々鍛えるのはブレない姿勢と心

九州女子大学

九州女子大学

剣道部 書道部

あ たりに響く気合の声。次の瞬間、バシッ、バシッという打ち込みの音が耳を襲う。ここは九州女子大学の体育館「錬成館」の剣道場。この5月、サークルから部へと昇格した九州女子大学剣道部の稽古が月曜から金曜の毎日、行われている。かつて九州女子短期大学に体育科があり剣道は強かったが、部員が減少し活動は中断。久々の部復活となった。

主将は井手桃美さん。小学校から剣道を続け、大学に入学してもサークル活動として九州共立大学剣道部と合同練習を行っていたという。「部に昇格し、練習も錬成館の剣道場を使えるようになりました。指導に本庄裕嗣先生をお迎えすることができ、より充実した環境が整いました」とうれしそうだ。

稽古では基本動作に重点を置き、部員一人一人の癖やフォームの乱れを本庄先生から修正してもらいながら竹刀の振り方や足さばきを確認している。「フォームが正しいと打ち込む位置がぶれず、試合で1本が取れる確率が高くなりました」と成果を話す。

部員は現在5人。そのうち大田葵子さんと大庭文華さんは共に、部に昇格したのを機に井手さんから声をかけられ入部した。二人とも小学校教員を志望しているが、剣道を通して学ぶ感謝の気持ち、稽古で身につける礼儀作法や忍耐力、継続力が教職をめざす自分を高めているとよこさる。

部の最初の目標は11月に行われる九州地区大学体育大会（九州インカレ）での入賞だ。しかし、部員数は試合に出場できる最低人数。井手さんは「興味のある人は、ぜひ稽古を見に来てください」と入部者を募っている。

九州女子大学では、2018年度入試から技能特待生（剣道）入試を設けます。



右／九州女子大学 家政学部 栄養学科 2年
（福岡県立筑紫高等学校出身）

井手 桃美さん

中／九州女子大学 人間科学部
人間発達学科 人間発達学専攻 2年
（福岡県立八幡南高等学校出身）

大田 葵子さん

左／九州女子大学 人間科学部
人間発達学科 人間発達学専攻 2年
（鹿児島県立伊集院高等学校出身）

大庭 文華さん

校章を囲んで、右から3人目が指導者の本庄裕嗣先生。部に昇格して佐古野瑛さん、宮西彩華さんの2名の1年生が入部した。

稽古は月曜から金曜の夕方6時30分から8時まで。ハードだが部員たちは勉強と剣道をうまく両立させ、どちらもよい結果を出したいと意欲を燃やしている。

本庄 裕嗣先生

剣道歴は約50年。公立中学校教師から教頭、校長を歴任し、教師時代は剣道の指導をしていた。勝ちにこだわる剣道ではなく、基本を大切にしたい美しい所作を重点的に教える。部員からは、指導法が優しくわかりやすいと好評だ。



一文字一文字、自分と向き合う世界 切磋琢磨する仲間が成長の原動力

九州女子大学 人間科学部 人間発達学科 人間基礎学専攻 3年
（佐賀県立佐賀北高等学校出身）

水田 杏佳さん

書道といえば、習字を思い浮かべる人も多いだろう。しかし、両者は考え方も書き方も全く異なる。その違いについて水田杏佳さんは、「先生のお手本通りきれいな字を書くのが習字。書道は文字を通して創り上げる造形芸術です」と教えてくれた。日々の稽古では中国の古い銘文や筆跡などから書風を学び、自分が感じた美しさを追求するという。

水田さんは小学校から書道を始め、書道で有名な佐賀北高校時代、九州女子大学主催の揮毫大会に参加。その頃から書道部に入ることを決めていた。約30年の歴史がある「読売書法展」に2年連続で入賞した実力の持ち主だ。

そんな水田さんをはじめ、高校で書道の専門教育を受けた部員がおり、入部条件はかなり厳しいものに映る。しかし、「経験のない新入部員には先輩が手本となる資料の探し方や、稽古の積み方などをアドバイスしています。各自、自分のレベルや求める表現方法に合った作品をつくるので経験ゼロでも大丈夫ですよ」と初心者にも優しい。

稽古は授業の空き時間や休みの日など、各自のペースに任されているが、月に一度、部員合同で錬成をするほか、夏には合宿も行い、顧問の古木誠彦准教授から指導を仰ぐ。

「古木先生の指導は厳しく、落ち込むこともあります。また、展覧会への出品前ともなると行き詰まる部員も多いのですが、そんな時はお互いに悩みを打ち明け、アドバイスを合うことで乗り切っています」と水田さん。

作品づくりは孤独だが、自分が努力した分、結果が返ってくるのがやりがいだ。そして、悩みや成長を分かち合える仲間の存在が、部員たちの大きな活力になっている。

九州女子大学では、技能特待生（書道）入試を設けています。



書道部員は毎年秋、九州女子大学主催の「高等学校揮毫大会」の運営スタッフとして会場準備から当日の高校生の誘導、後片付けまで担当。また北九州市内の施設で小学生に書道を教えるイベントに参加し、楽しさを伝える活動をしている。

現在、36名の部員が在籍。和やかな雰囲気でもわりと笑い声も聞こえるが、一旦筆を持つとビッシリとした緊張感が全員に走る。

古木 誠彦准教授

（九州女子大学 人間科学部
人間発達学科 人間基礎学専攻）

読売書法会理事、謹慎書道会常任理事、全九州大学書写書道教育学会監事など、要職を務め、日展をはじめ多数の展覧会で作品発表。流派にこだわらず学生にあった書法を指導。自分らしさを加えて表現の幅を広げることがモットーだ。福岡県美術協会正会員、書学書道史学会会員。



第53回「霜月祭」開催

FROM 九州共立大学

11月4日(土)・5日(日)
シンガーソングライター・
MACOのスペシャルライブ
ローション相撲や共立のど自慢選手権など、
人気イベントも盛りだくさん

九州共立大学では最大級のイベントとなる学園祭・第53回「霜月祭」を、11月4日(土)・5日(日)の両日、にぎやかに開催します。

ゲストは10代20代の若い世代に高い人気を誇るシンガーソングライターのMACO。日本ゴールドディスク大賞新人部門など各賞を受賞する実力派で、共感を呼ぶラブソングでキャンパス中を魅了してくれることでしょう。

このほか、コミカルな動きで爆笑の渦を起こす「ローション相撲」や日頃鍛えたのどを学生たちが披露する「共立のど自慢選手権」など、人気企画が目白押し。地元のちびっ子たちがパワフルな踊りを披露するダンスショー、九州共立大学の美男美女が次々に登場する「Mr、Ms共立」といった楽しい催しもあります。

もちろん、模擬店も多彩。おいしいものがいっぱい揃います。11月4日・5日は、お誘い合わせの上、霜月祭へお越しください。



第57回「華秋祭」開催

FROM 九州女子大学・九州女子短期大学

11月3日(金・祝)～5日(日)
青山テルマを迎え華やかにステージイベント。お笑いコンビ・ANZEN漫才も登場

九州女子大学・九州女子短期大学の大学祭・第57回「華秋祭」を、11月3日(金・祝)から11月5日(日)まで開催します。今年は新しいキャンパスが完成して初めての華秋祭となり、緑豊かな芝生に座ってイベントを楽しめるよう野外ステージを設けます。

ゲストは「足立区あるある」などのネタで知られる人気お笑いコンビ・ANZEN漫才。軽妙な掛け合いや歌ネタで会場全体が笑いに包まれることでしょう。

そして、注目したいのがゲストアーティストの青山テルマ。華秋祭には2回目の登場となりますが、今年デビュー10周年を迎えて歌もトークも深みを増し、新しいテルマさんを発見できるかもしれません。

これらステージのほか、おいしいものがあふれる模擬店や各サークルによる展示・発表も盛りだくさん。楽しさいっぱいの華秋祭に、みなさまお誘い合わせの上、ご来場ください。大学祭実行委員一同、お待ちしております。



九州共立大学「ちょボラ部」、「犯罪減少に貢献します」 福岡県警察からサイバーパトロールモニターを委嘱

FROM 九州共立大学

インターネット上で違法・有害情報などを発見し警察へ通報する「サイバーパトロールモニター」。その任務を九州共立大学のボランティア活動グループ「ちょボラ部」の学生が福岡県警察から委嘱されました。

モニター委嘱は福岡県警察が平成25年に始めたもの。インターネット上で危険ドラッグの販売やわいせつ画像などの違法・有害情報を見つけた際、これらの情報を受け付ける専用サイトに通報し、拡散を防止する役目を果たします。

この9月15日、県警主催の委嘱式と研修会が九州共立大学で行われ、ちょボラ部部員9名が出席。福岡県警サイバー犯罪対策課の森山仁課長から委嘱状とバッジを受け取りました。森山課長が「活動を通して安心安全なサイバー空間を実現しましょう」と呼びかけると、同部代表の中野航希(経済学部3年)さんは「県警の方々と協力し、少しでもサイバー犯罪の減少に貢献できるようにしっかり監視したいと思います。」と決意を述べました。

委嘱式は新聞などが取材。広く報道され、話題を集めました。



マルハニチロと共同研究 健康状態の変化も検証中 高血圧予防・改善をめざすDASH弁当を開発

FROM 九州女子大学

DASH食はDietary Approaches to Stop Hypertensionsの略で、1990年代にアメリカで提唱された、高血圧予防・改善を目的とした食事の方法。高血圧予防に有効とされるカリウムやカルシウム、マグネシウム、食物繊維が多く、高血圧の原因とされるコレステロールと塩分が少ないのが特徴です。

アメリカでは高血圧治療やその予防のため、科学的根拠に基づく食事療法として定着していますが、日本ではまだまだ知られていないのが現状です。

九州女子大学・巴研究室では、この考えを取り入れた日本人向けDASH弁当をマルハニチロ株式会社と共同で研究・開発。販売前のアンケート調査のため、本学の教職員50名を対象に平成29年9月19・20日に試食会を実施したところ、「減塩とは思えないくらいおいしい」と大変好評でした。

現在、白飯を取り入れた弁当を学生とともに開発中。毎日の食事の1食分をDASH弁当に切り替えることで健康状態がどのように変化するのか、その検証のため、臨床研究も進行しています。

